

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	33100101	事業名称	商店街活性化事業	事業区分	通常事業
担当	経済部	産業振興課	問い合わせ先	258-1110(10261)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	60	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 3 活気ある商業の振興 - ① にぎわいある商業活動の振興				
根拠法令等	川口市商店街近代化事業費補助金交付要綱、川口市照明施設維持管理事業補助金交付要綱、川口市空き店舗活用事業補助金交付要綱				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 商店街振興組合、事業協同組合、任意商店街、地区連合商店会、商工会議所、商工会、市内に住民登録のある個人、市内に法人登記のある法人	受益者(最終的に受益を受ける人) 同左及び市内商店街の利用者													
事業の概要	事業の目的(何のために) 川口市の商業環境は、消費者の生活様式の変化、消費者ニーズの多様化により大変厳しい状況となっている。こうした中、消費者ニーズを的確に捉えた人が集う商業環境づくりが緊急の課題になっているため、地域の特性を活かし人が集える魅力的な商店街活動を支援し、活性化を図る。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・商店街等が実施するソフト事業・ハード事業への補助 ・空き店舗を活用し事業を始める際の改修費への補助 ・商店街等が所有する街路灯等の電気料への補助 ・商店街が実施する美化促進に係る費用への補助 等													
元年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ①商店街コミュニティ活動事業補助金②商店街コミュニティ関連施設設置事業補助金③商店街照明施設維持管理事業補助金④商店街空き店舗活用事業補助金⑤商店街改修事業補助金⑥商店街美化促進事業補助金⑦商店街経営者セミナーの実施	主な実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>商店街コミュニティ活動事業補助金</td> <td>49</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>川口市商店街改修事業補助金</td> <td>13</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>商店街コミュニティ関連施設設置事業補助金</td> <td>2</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>		項目	実績	単位	商店街コミュニティ活動事業補助金	49	件	川口市商店街改修事業補助金	13	件	商店街コミュニティ関連施設設置事業補助金	2	件
項目	実績	単位													
商店街コミュニティ活動事業補助金	49	件													
川口市商店街改修事業補助金	13	件													
商店街コミュニティ関連施設設置事業補助金	2	件													
事業の成果【定性的評価】	各種イベントの開催や美化活動をすることで、地域住民との交流が図られた。更に街路灯のLED化により、買い物環境の向上及び防犯抑止効果が高まった。														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	商店街コミュニティ活動事業補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	商店街が実施したイベントや販促事業を過去の実績、商店街へのアンケート結果等から考慮し、決定。				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	55 達成		50 達成		49 未達成				
指標②	名称	商店街コミュニティ関連施設設置事業補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	年間補助事業件数を過去の実績、商店街へのアンケート結果等から考慮し、決定。				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	3 達成		2 未達成		2 未達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計		07款		01項		02目		004細目		04細々目		商店街活性化事業	
年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度					
予算額(A)	76,793		53,699		55,912		67,164		67,164					
決算額(B)=(C)+(D)	47,225		43,926		44,212									
財源※	特定財源(C)		3,156		3,299		6,416		6,416					
	一般財源(D)		40,770		40,913		60,748		60,748					
概算人件費(E)	8,970		9,085		9,085		9,085		9,085					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.15	0.00	1.15	0.00	1.15	0.00	1.15	0.00	1.15	0.00	1.15	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	56,195		53,011		53,297		76,249		76,249					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	検討した			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	川口商工会議所・鳩ヶ谷商工会・川口市商店街連合会との連携を図りながら、事業者や消費者のニーズ及び商店街を取り巻く環境の変化を踏まえ、より効果的な支援方法も含め、検討して参りたい。	2年度	効率化して実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

事業コード	33100101	事業名	商店街活性化事業
部会名	第二部会	担当課	産業振興課

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	3	2	2	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	3	3	3	3	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	3	3	2	2	2	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	-	-	-	-	-	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	4	2	3	2	4		
部会全体	3	3	3	2	2		

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨・目的が明確といえない。
2	①趣旨・目的及び達成手段	中小商店街の存続・活性化のためには必要不可欠な事業であると思う。
3	①趣旨・目的及び達成手段	活性化の為には不可欠な事業である。
4	②事業の効果	有効性の検証がなされていないと思われる。
5	②事業の効果	数的比較等が他の事業とできるわけではないが、概ね有効に機能していると思う。
6	②事業の効果	有効性が直接的に測られるような仕組みになっていない。アンケートなどで集計できるようにしてはどうか。
7	③事業の効率化	他の組織・団体等と連携するかたちであったとしても、もっと市が力を入れ、表に立って商店街へのアプローチをしてもよいと思う。
8	④課題解決への取り組み	方針（戦略）が明確ではなく、戦術的取り組みしかしていない。
9	④課題解決への取り組み	より効果的な補助金の支給、予算の執行ができないか。

No.	評価の観点	評価コメント
10	⑤今後の事業の方向性	1985年以降、社会状況が大きく変化してきた上に、今年度のコロナ感染症問題でより大きな変化が起こることが想定される。戦略を持たない現状は不安である。
11	⑤今後の事業の方向性	市としての今後のビジョン、例えば中小商店街のいくつかを1つの大きな規模の商店街にまとめ、大型店に負けない力をつけてもらうことや、中小商店街が衰退することがないように市が助けていくなど、目指すところをある程度決めるべきだと思う。
12	⑤今後の事業の方向性	内容を充実させつつ、一層拡大していくべき。
13	⑥事業全体を通した総合的な評価	多様化するニーズや大型ショッピングモール等に対して、商店街に求められる集客、売り上げには、行政も入り込んだイベントやブランド作りが必要と思われる。
14	⑥事業全体を通した総合的な評価	事業としては良い事業だが、コロナ問題を経て商店街も変化していく時期なので、事業内容を工夫しつつ、商店街の活性化に尽力してほしい。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
3 概ね適正	事業に対して期待はしている。しかしながら、公平性に縛られすぎず、変化に対応したやり方が必要になってくると考える。
②事業の効果	
3 概ね適正	補助をして終わりという印象は否めないことから、事業の効果検証やどの分野に支援の重点を置くのかを図る意味においても、アンケート等のモニタリングを行うことが有効と考える。
③事業の効率化	
3 概ね適正	
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	方針(戦略)が明確でなく、戦術的な取り組みに終始しているように思える。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	変化していく状況に対して、戦略やビジョンが必要である。方向性が定まらなると、今やるべきことは何か明確化しない。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体を通した総合的な評価としては、ビジョンや戦略を決め、支援の方向性を定めていく必要があるというものである。行政としての公平性は理解したが、変化に対応するには、それに縛られず、自主的に手を打っていくことが肝要となるだろう。そのためには、アンケートの実施など事業の効果測定をするべきであり、測定は今後の戦略につながる有効な手段である。 ・ 1985年からこれまでの商業環境の変化があり、そして、コロナ禍を経て、今後ますます商店街は変化にさらされる中で、どういう形で商店街が発展していくのか、方向性を考える必要がある。商店街によって規模も体力も様々であり、一律な支援の仕方ではよいのか、従来どおり補助金の申請を受けるだけでよいのかという疑問にもつながるが、方向性を定めてどこを手厚く支援していくかについて、行政も自主的に考える時期である。